

Nihon Ongaku Shudan (Pro Musica Nipponia)

日本音楽集団

第一一七回◆定期演奏会

"声が舞い音が翔ぶ
琵琶楽の餐宴"

1991年2月5日(火)午後7時開演

バリオ・ホール

主催 / 日本音楽集団

日本音楽集団 TEL 03-3378-4741

〒151 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302



ごあいさつ

「琵琶楽の饗宴」に寄せて

『季刊邦楽』主幹 吉川 英史
日本琵琶楽協会名誉会長

日本音楽集団は、昨年度のモービル音楽賞を受賞しました。多種多様な邦楽器を使って、邦楽器のみによる管絃楽を創造した成果が、その授賞理由の一つであります。

その多種類の邦楽器の中でも、琵琶は最も注目すべき楽器でありまして、①琵琶は語り物音楽の伴奏楽器であったものを、日本音楽集団は合奏楽器として使用することに成功しました。また、②薩摩琵琶と筑前琵琶とは、別系統の異質の楽器であったものを、同じ曲の中で合奏させることも、普通の琵琶界にはないことで、「集団」ならではの新機軸です。③しかも、新しい合奏音楽と伝統的古典的な琵琶楽との両方を尊重する「集団」の姿勢も当を得たものです。

元来、琵琶は他の楽器にはない独特の音色を持っていますし、絃楽器の常識を破った打楽器的效果の出せる楽器であります。四絃乃至五絃を同時に強く大きな撥で打つことによって得られる迫力と気合は、正に日本の琵琶の独壇場です。

ただし、中国の琵琶とは違って、フレットが高く、その数が少なく、大きな撥を使うことが、旋律楽器としては大きな制約でありましょう。しかし、これらのことは百も承知の「集団」の琵琶人です。自作自演の魅力ある新作、委嘱初演の「ダブルコンチェルト」をどのように表現してくれるか、楽しみです。

プログラム

1. 春 鳳——胡弓と琵琶のための 畦地慶司 作曲

〔胡 弓〕畦地 慶司
〔琵琶〕山田まゆ美

題名は故郷に伝わるアイヌの伝説からとりましたが、その話は、「昔或る時、とても大きな鳥が海の方から飛んできて、地面がその鳥の影で覆われてしまったという。そしてそれは、随分長い時間だったので、その為に地面が真黒になってしまい、今ここではその影が砂鉄となって残っている」というのです。即ち、冷たい氷や雪の塊を吹き飛ばしてしまう大鳥の運ぶ春風の事を「春鳳」と題しました。

1978年1月、第45回定期演奏会で初演。

(畦地慶司)

2. 紫 苑——尺八と琵琶のために 甲田 潤 作曲

〔尺 八〕藤崎 重康
〔琵琶〕坂田 美子

「紫苑」～尺八と琵琶のために～と墨で書かれた楽譜の最初のページをめくると、私にとって懐かしい時の刻み、季節の移ろい、そして音たちとの出会いを思い出します。尺八の息と竹の音、琵琶の絃と撥の音、それらは本当に僅かずつ私の心の中にふくらみ、形づくられ定着していきました。

1980年の初夏から晩秋にかけての忘れられない出会いです。

「紫苑」はキク科の植物で、秋になると真っすぐにのびた2メートル程の茎の下に、優美な淡紫色の花をつけます。また、その花言葉は、〈追想〉〈思い出〉などと言われています。

(甲田 潤)

3. 焦がれの女 秋浜悟史 作詞 田原順子 作曲

〔歌・琵琶〕田原 順子

「こころの闇に潜むもの 声の形にならぬもの

火の病むごとき狂おしき 男は察して、重荷なのか……」 一原文冒頭—

道成寺伝説の清姫を語りたかったのです。

道成寺絵巻の絵ときには、「先生にいかなる悪業を造って今生に斯くは苦惱^{あくごう}して男を追うか、とあります。追われる男も、追う女も、前世の悪因による悪果^{こんがい}とか。

そうは言われても、哀しいような、いとおしいような気持になるのです。

鬼才、秋浜悟史先生の名文に曲をつける事は、至難の技でした。

初演・1984年10月6日 於・名古屋・じゆう舞台鶴舞座

(田原順子)

4. 阿国相聞歌

山田美那子 作詞 半田淳子 作曲

〔歌・琵琶〕半田 淳子

仕官した恋人、名護屋山三郎(阿国の師匠でもあった)を追って津山までくると、思いもかけぬ山三の死に沙汰にあい、狂ったように歌い、踊り、ひたすら歌舞の道を貫こうと決意する痛切な女の叫びと願いを表現した曲です。

1986年10月、日本音楽集団津山公演・津山文化センターで初演。

(半田淳子)

〈歌 詞〉

へこれやこの 花や都の出雲の阿国となむ聞こへける女一人ありけり 命とも契りし男の名護屋山三郎は 武士の家筋なれば 仕官して作洲津山へとぞ趣く 阿国が事は その名も捨て 後もかへりみなく 山三の行きし作の路従いてゆく 行けば津山か漸々に院の庄に至りける 時しもただならぬ人声の数多あり 喧嘩なり 刃傷沙汰よ やよ人死にぞある ロクに云い群り集う 人垣の背越に 倒れし人の臥したるも見へ あな氣疎の事や 急ぎ山三がもとへゆかばや とて打ち消し 行き過ぎんとする足下に訝しや 泥にまみれし黄覆輪の太刃の鞘 かの太刃佩くは 天が下知るに 山三が他においてなし 引き戻し 人かきわけ軋び入るに 紛ふなき夢忘れじの山三なり かき抱きかきくどき 人目もあらぬう血の色の いまだ鮮らけき口吸い 頬叩き 山三がみな 呼ばいおらび哭するに 仄温き肌重のいつしかに冷えゆく 三日三夜経て 夜の帳に眼見開き 阿国はつと立ち舞い始めたり 形見の太刃佩き 苛高の念珠首にかけ 翻す舞扇 我こそ聞け 我や歌わん 新らしき旅立の歌 現し身は 潔の不生女なれば 山三が霊をはらむに 相應し 我が魂に 山三映して我は踊らん 我が唇に 山三憑かせて我は歌わん 悲しみを喜びに 苦しみを力に代えて 心、素直にふるまいて短かびの一生を我は生くべし

5. ダブルコンチェルト——2面の琵琶の為の協奏曲 (委嘱初演)

川崎絵都夫 作曲

〔琵琶〕①半田 淳子 ②田原 順子
坂田 美子 山田まゆ美

〔笛〕西川 浩平

〔尺八〕藤崎 重康・添川 浩史

〔箏〕吉村 七重・内藤 洋子

〔十七絃〕宮越 圭子

〔打楽器〕尾崎 太一・望月太喜之丞

〔指揮〕稲田 康

大変長い歴史のある琵琶という楽器は、一音発しただけで立ち現われる、独自の世界を持っているように感じられます。その世界を生かしつつ、何とか今の我々の感覚にも合うような楽しめる音楽が作れないか、というのが今回の作曲にあたって留意した事です。

曲は次の4つの楽章から成ります。

第I楽章 序奏の後現われる主題と、速いテンポによるその自由な展開。

第II楽章 遅めのテンポによって交わされる二面の琵琶の対話。

第III楽章 琵琶によって歌われる唄。

第IV楽章 琵琶の運動性を生かして躍動感を表現した楽章。

(なお本日は1パートにつき2面ずつ計4面の琵琶で演奏されます。)

(川崎絵都夫)



オリジナル立奏台

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15
TEL(3792)8481 FAX(3792)8437

〒150 東京都渋谷区神南1-1-1 電話03(3467)1947 03(3467)6811

三弦・琴・琵琶
三田村楽器店



びいはいぶ文化事業倶楽部

— 代表 渡辺 桐子 —

横浜市中区常盤町5の72 第6須賀ビル
TEL045-641-7019

琵琶

琵琶の響が過ぎし時の流れを呼び夢幻の世界に誘

半田淳子の世界

COLUMBIA



阿国相聞歌

山田美那子作詞
半田淳子作曲

小督

歌詞"平家物語"より
半田淳子作曲

散華

前唄"平家物語"より 後唄石牟礼道子作詞
"流民の都"より (琵琶と語り)半田淳子作曲
(ピアノパート)佐藤允彦作曲

琵琶・歌：半田淳子
琴・歌：内藤洋子
ピアノ：佐藤允彦

CD▶30CF-2733 ¥3,000
カセット▶CAY-9143 ¥2,500